土質ボーリング柱状図（標準貫入試験）

調　査　名　一級河川　太田川水系　根谷川支川９　通常砂防事業に伴う業務委託

事業名 または 工事名

調査目的及び調査対象　砂防 砂防

ボーリング名	Bor.No.4	**調査位置**	広島県広島市安佐北区可部町上町屋　地内			**北緯**	34° 32′ 56.1527″
発注機関	広島県西部建設事務所			**調査期間**	2023年　6月　8日 ～ 2023年　6月 12日	**東経**	132° 31′ 51.7275″
調査業者名		**主任技師**		**現場代理人**		**コア鑑定者**	**ボーリング責任者**
孔口標高	T.P. 100.23m	**角度**	180°上下 90° 0° 0°	**方位**	北 0° 270°西 90°東 180°南	**地盤勾配**	水平0° 鉛直 90° 35°
総削孔長	10.00m	**使用機種**		**試錐機**	東邦地下工機　D1-B48		
				エンジン	ヤンマー　NFD-12	**ポンプ**	東邦地下工機　BG-3C

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	現場土質名（模様）	現場土質名	地盤材料の工学的分類	色調	相対密度	相対稠度	地質時代名	記事	孔内水位／測定月日
	99.93	0.30		シルト質砂		褐			第四紀	表土に相当し細粒分に富む。砂分は細砂が多い。	06/08 0.31
	99.43	0.80		礫混じり砂		褐				礫分はφ35mm以下。砂分は粗中砂優勢。下位区間に比べ、マサ土質が弱い。崖錐堆積物に相当する。	06/09 1.12
1 2	98.03	2.20		礫混じり砂		灰褐	rd3			礫分は細礫を主体に、大径のものはφ10～40mmに達す。全体にマサ土質が強く、砂分は粗砂が主体をなしている。所々、不規則に褐色の細粒土を含んでいる。2m貫入試料の最上部は、不均質な細粒土塊である。よって、ここまでは堆積層で間違いない。崖錐堆積物あろいは土石流堆積物、双方の可能性が考えうる。	
3	97.23	3.00		礫混じり砂		灰褐	rd3			コアの一部に明瞭な岩組織を認め、基盤岩風化土の可能性はある。ただし、2.9～3.0m間に角が取れ丸みを帯びた石の混入を認めたため、堆積層であると判断した。崖錐堆積物あるいは土石流堆積物、双方の可能性が考えうる。	06/09 2.91
4	96.58	3.65		強風化花崗岩		淡褐灰			白亜紀	岩組織はかなり明瞭で、風化岩で間違いない。コアは砂状を呈し、軽い指圧で容易に崩れる。【DM級岩盤、締まった砂質土に相当する】	
5	95.23	5.00		強風化花崗岩		白灰				砂状コアを呈する。固結度はほぼ失われており、指圧により広い範囲が崩れる。下位との岩質境界は明確ではない。【DL級岩盤、緩い砂質土に相当する】	
6 7	93.23	7.00		強風化花崗岩		白灰				土棒状コアで採取される。固結度は弱く、軽い～中程度の指圧で崩れる。試料は砂粒サイズまで粉砕可能である。5.8～5.9m間は有色鉱物の濃集部である。全体に均質な風化状況にある。【DM級岩盤、締まった砂質土に相当する】	
8 9 10	90.23	10.00		風化花崗岩		白灰				やや均質に岩芯風化しているが、固結度は少し増している。コアを崩すには中程度の指圧が必要である。貫入試料をほぐすと粗砂～細礫状となり、岩片は残存しない。9.5m以深、固結度は明らかに高まり、指圧により崩すのは困難となる。最終深度の貫入試料も明らかに粗粒化している。【DH級岩盤、軟岩Iに相当する】	06/12 8.70
11											

標準貫入試験

深度－N値図（0 10 20 30 40 50）

N値	深度 (m)	100mmごとの打撃回数 0～100	100～200	200～300	打撃ごとの貫入量	50回の貫入量	自沈時の貫入量
26	1.15～1.45	13	8	5	26/300		
25	2.15～2.45	7	9	9	25/300		
39	3.15～3.45	20	8	11	39/300		
28	4.15～4.45	8	8	12	28/300		
38	5.15～5.45	10	13	15	38/300		
39	6.15～6.45	9	12	18	39/300		
58	7.15～7.41	15	23	12 60	50/260	260	
75	8.15～8.35	18	32		50/200	200	
50	9.15～9.45	17	17	16	50/300	300	
107	10.10～10.24	30	20 40		50/140	140	

試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験	原位置試験	削孔月日
					6/8
					6/9